



わなみ

教育目標「心身ともに健康で実践力のある子ども」

学校だより 第 2 号
令和 8 年 6 月 3 日
新潟市立和納小学校

TEL 0256-82-3028
Fax 0256-82-5780
<http://www.wanow.city-niigata.ed.jp/>



「叱る」ことも大切

校長 大矢和憲

令和8年度がスタートして、早いもので2カ月が経ちました。先月の運動会では、たくさんの方の保護者・地域の皆様から子どもたちに温かい応援をいただき、大変ありがとうございました。子どもたちはきっと、応援される喜びを感じ、いつも以上の力を発揮できたと思います。これからも、和納の子どもたちには健全に育ててほしいと願うばかりです。

というのも…このところ連日のように、「闇バイト」等で青少年が犯罪を犯す事件が報道されています。「強盗殺人」など、人として絶対にやってはいけないことだと、なぜ分からなかったのか。やったら自分や家族の人生がどうなるか、なぜ考えられなかったのか。家族や先生など、周りの大人は止められなかったのか…などと考えてしまいます。

また、年々児童生徒の暴力行為が急増しており、文部科学省の調査では、一昨年令和6年度の全国の小・中・高校における児童生徒の暴力行為の総数は、12万8,859件でした。

そして、総数のうち約64%が小学校と、低年齢化と発生件数の増加が、日本全体で大きな課題となっているのです。小学校の発生件数は、10年間で7倍超に急増。なんと新潟県は、児童生徒1,000人当たりの暴力行為発生件数が4年連続で全国1位となっています。

さらに最近では、人をあおる（挑発する）行為や、大人が注意したことに反発する子どもが増えていることも気になります。

これには、YouTubeやゲームといったメディアの影響など様々な要因が考えられますが、私は、大人が子どもを叱らなくなったことも大きな要因なのではないかと考えます。

「叱る」とは、「相手のために思い、何がいけなかったのかを論理的に気付かせ、よりよい方向へ導くこと」です。自分の感情をぶつけて「怒る」のではありません。人として絶対にやってはいけないことはもちろん、人を傷つけることや嘘をつくことなど、良くないことに対しては、大人が見逃さず、毅然と叱ることが大切だと思うのです。

例えば、次のような行為は、理由がどうあれ、相手が苦痛を感じた時点で「いじめ」になります。また、程度によっては犯罪になることもあります。

- 「人を叩く・蹴る・わざとぶつかる」といった暴力
- 「嫌なあだ名・悪口・陰口・暴言」といった言葉による暴力
- 人を挑発する「あおり」や、ケガにつながる危険な行為
- 人の物を盗ったり隠したりする行為
- いたずらや意地悪・保身のために嘘をつくこと
- わざと避けたり、仲間はずれにしたりすること



「褒めて伸ばす」とよく言いますが、一方で、良くない行為を叱ることは、子どもたちの人生を「守る」ことになるのです。良いことは大いに「褒める」、良くないことは毅然と「叱る」。子どもたちが健全に育つように、学校・家庭・地域で、「褒める」ことに加えて「叱る」ことも大切にしていきたいと思えます。



〈競技の部〉

優勝 赤組 435点

準優勝 白組 415点

〈応援の部〉

和納杯(元気) 白組

和奈美杯(アイデア) 赤組

5月16日(土)、さわやかな青空のもと、運動会を開催することができました。天候にも恵まれ、子どもたちはこれまでの練習の成果を存分に発揮し、最後まで全力で取り組むことができました。開会式では、代表児童の力強い言葉とともに運動会がスタートし、会場は大きな拍手と期待に包まれました。

ゴールを目指して全力で走る姿や、仲間と力を合わせて競技に挑む姿がとても印象的でした。中でも応援合戦では、応援団を中心に赤組・白組それぞれが心を一つにし、力いっぱい声を響かせていました。限られた練習時間の中でも、高学年が下級生にやさしく声を掛けながら練習を進める姿がとてもすばらしかったです。また、中学年は競技だけでなく応援でも大きな力となり、低学年も一生懸命に声援を送りながら運動会を盛り上げていました。

本気で走り、本気で応援し、本気で喜び悔しがる子どもたちの姿は、どの場面でも輝いており、多くの感動を与えてくれました。今年も、子どもたちの成長と学年を越えたつながりを感じる素晴らしい運動会となりました。保護者の皆様には、準備や片付け、競技運営など多くのご協力をいただき、心より感謝申し上げます。

体育主任 萩原 祐樹



白組応援団長

佐藤 衣織さん

ぼくは白組の応援団長を務めましたが、最初はみんなをまとめることにとても悩みました。特に大きな声を出す難しさを感じました。それでも、自分がみんなにお手本を見せたり、大きな声を出すように繰り返し伝えたりしていきました。そして、練習を重ねるごとに白組のみんなの絆が強まっていくのを感じ、ぼくの掛け声にこたえて少しずつ団結していく姿を見て、自信が持てるようになりました。

本番では全学年が一つになって声を張り上げ、最後までがんばることができました。最終的に負けてしまったけれど、みんなで全力を尽くした楽しい運動会になったので、最高の思い出です。



赤組応援団長

海鈴 さん

最初はわからないことがたくさんあり、応援団長として心配だったけれど、応援団のみんなで解決していくことができ、とても心強かったです。応援合戦ではとても緊張しましたが、みんながいつもより大きな声で応援していました。だから、緊張よりも「絶対に勝つぞ」という思いが強くなり、思いっきり大きな声で応援できました。

私はこの運動会で、みんなで協力する大切さを知りました。団長1人ではできないこともたくさんあったけれど、みんなが助けてくれたので本番で優勝することができました。赤組のみんなのおかげで最後まで楽しかったし、優勝と和奈美杯の両方をもらうことができ、最後の運動会が最高の運動会になりました。

<文部科学省 教育課程柔軟化サキドリ研究事業について>



令和8年度・9年度と、和納小学校は、文部科学省が進める「教育課程柔軟化サキドリ研究事業」の指定校となりました。

この事業について具体的に説明すると、学校には、国の標準授業時数（各教科毎の授業時間など）という基準があります。これを学校の裁量で柔軟に変更し、より自校の子どもたちの力を育むための時間づくりのために調整・実施してよいとする、数年後から全国の学校で本格実施されることを先行的に（先取って）やってよいという、なんともうれしい事業です。

令和8年度の和納小学校では、従来の各教科等の授業や学校生活を大切にしつつ、国語・生活・総合の授業時数を少しずつ調整し、主に次のような、これから子どもたちに必要な力をつけるための教育活動を、専門機関や地域の協力を得ながら実施していきます。

7文科初第2062号
サキドリ研究校指定書
新潟市立和納小学校を
教育研究開発実施要項
(教育課程柔軟化サキドリ研究校事業)
(令和7年8月28日文科科学大臣裁定)
に基づき令和8～9年度
サキドリ研究校に指定します。

令和8年2月13日

文部科学大臣 松本 洋平

【道徳プラス+】（全7時間）

- ① 従来の道徳の授業時間に加え、いじめ・人権・いのちの安全教育・情報モラルに関する学習を、新潟県警察や県少年サポートセンター、人権・福祉機関などの協力を得て、全校（学年部）で実施します。
- ② タブレット端末や生成AIの利活用に関する道徳的な指導を、学級または全校（学年部）で実施します。

- 早速、6月9日（火）に、県少年サポートセンターの方を講師として、「いじめ」に関する特別授業を全校（上学年・下学年）で実施します。
- 夏休み前の7月21日（火）22日（水）に、新潟県警察の方を講師として、「情報モラル」（特に、ネットトラブルの防止やICT端末の正しい使い方）に関する特別授業を全校（低・中・高学年）で実施します。
- 11月10日（火）に、県少年サポートセンターの方を講師として、「性被害の防止」や「いのちの安全教育」に関する特別授業を全校（下学年・上学年）で実施します。この他、「命の大切さや人権」「生成AIの利活用」に関する特別授業も計画中です。

【わなみプラス】（全10時間）

- ① 自己の伸長（キャリア形成）に関わる学習を、学級または全校（学年部）で実施します。
- ② 地域行事に参画する活動や地域や関係機関等から提供された学習、地域をフィールドにした体験などを、学級または全校（学年部）で実施します。
- ③ 「学力パワーアップ週間」（9月・1月）に、子どもたちが自分で学習内容を決めて（自己選択・自己調整）朝学習をする取組を実施します。

- 「矢川灯籠流し」「和納十五夜祭り」「岩室駅イルミネーション」などの地域行事へ参画（協力）や、郵便局の「お金の使い方教室」、ヤクルトの「食育授業」、「和納ふれあいウォーク」などを実施します。教育活動の様子は学校ホームページでもお伝えしていきます。皆様どうぞお楽しみに！



令和8年度 和納小学校の教育ビジョン ～3つの力を育てます～

今年度、和納小学校では「心身ともに健康で実践力のある子ども」を目指し、学校・家庭・地域が連携して、特に以下の「3つの資質・能力」を重点的に育みます。

1. 【学ぶ力】～自ら問いをもち、学び、表現する力～

●学校での具体策

「学ぶ力を高める授業」をベースに、学習アプリ（タブレット端末）の活用や、自分の考えを言葉や文字で表す「アウトプット」の活動を充実させていきます。

●このような姿を目指します

- 「どうしてだろう？」と自ら疑問を持ち、解決しようとする姿
- 自分の考えを、友達に分かりやすく伝えられる姿



お子さんが宿題や家庭学習、読書などに取り組んだ際は、「最後まで頑張ったね」「どんなことを勉強したの？」と、プロセスを褒めたり、話を聞いたりして、学習意欲を支えてください。

2. 【かかわる力】～相手を思いやり、多様な人々と協働する力～

●学校での具体策

自分と向き合う道徳の授業を大切にするとともに、異学年で活動する「わなみ班活動」や、地域の方々と交流する活動を充実させ、温かい人間関係（支持的風土）を醸成します。

●このような姿を目指します：

- 相手の気持ちを考えた、心のこもった「あいさつや礼儀」
- 集団の中でルールを守り、友達と協力して活動する姿



家庭や地域でも、元気な「おはよう」「行ってきます」「ありがとう」の声掛けを大切に、大人がまず手本となり、気持ちのよいあいさつの輪を広げていきましょう。

3. 【向上心】～自分のよさを生かし、よりよい自分を目指す力～

●学校での具体策

友達や自分の「いいところみつけ」を行い、自己肯定感を高めます。また、各種パワーアップ週間などを通して目標を設定し、振り返る力を育て、様々なことに挑戦する機会を増やします。

●このような姿を目指します：

- 「まずはやってみよう！」と、失敗を恐れずに新しいことに挑戦する姿
- 自分のよいところに気づき、自分を大切にできる姿

ご家庭でも、お子さんのよいところや日頃の頑張りを褒めたり、お手伝いなどをした際に「ありがとう」と言葉をかけたりして、温かく見守り応援してください。

